

郷土を知り、郷土を愛する

志木市 歴史とんぼ

— 執筆・協力 志木のまち案内人の会 —

第34回 天神社と八坂神社

宿の天神社は、中宗岡北美町バス停付近の鎮守社です。

天神社は、1626年に江戸の湯島天神を分祀した説と、この地を支配した名主、山口大膳氏の出身地の北野天神(現所沢市)を分祀したという二つの説があります。境内には六社の摂社があり、その中の悪疫の流行を防ぎ退散させる八坂神社はスサノオノミコトが祀られています。

春の天神社の例大祭では、神楽のほか素人演芸大会が戦後盛んに行われていました。

現在宿組囃子連保存会は、志木市の無形民俗文化財の指定を受けており、地域全体の子どもたちの育成に力を入れています。獅子や狐の舞、おかめ、ひょっとこ、狸のかわいい

神楽は、毎年奉納されています。2000年に新作神楽「狐童」も考案され、今は祭りのハイライトになっています。

当時、八坂神社の夏祭りは7月12日に開催され、この日の宿組の児童は半日授業となり、ほかの地区の子を羨ましがらせました。その後、この日は宗岡小学校の開校記念日となりました。

八坂神社の御輿は、北美町の宮大工の小日向さんが昭和11年に製作されました。現在も宿組町内を渡御し、志木の祭りのトップを切って挙行されています。道路に飾りつけられる万燈も祭りを盛り上げます。

八坂神社の祭りは、一町内に十数か所の神酒所があります。獅子頭を先頭に5台の御輿や山車の渡御が続けてこられたのは、70数戸の氏子と若連、囃子連、地域の崇敬者の寄附や支援のたまものです。



▲市制施行20周年を祝う天神社の写真(平成2年)

また、22日には、志木市の夏の風物詩である「民踊流し」も、実に4年ぶりに開催されます。「民踊流し」は、「生まれ育った志木に対する郷土愛を育むこと」、「次世代を担う子どもたちに踊りを継承すること」の2つの想いが込められはじまり、町内会や学校でも踊りの練習が行われることで、現在までその想いがしっかりと継承されています。市民の皆さんが「志木おどり」「志木音頭」にあわせて、元気に踊り流す姿を心から楽しみにしています。

さて、7月7日は、七夕です。七夕といえば、織姫と彦星のエピソードが有名ですが、もう1つ、色とりどりの短冊を笹につるす七夕飾りも風物詩です。七夕飾りの短冊は、奈良時代に中国から伝来した「乞巧奠」が起源の一つとされています。「乞巧奠」は、はた織りや裁縫などの上達を祈り、7月7日の夜に行われる行事で、五色の布や糸が捧げられたそうです。その行事が日本に伝わり、五色の短冊に願い事を書いて笹につるして星に祈る、現在の形に変化したといわれています。

短冊は、高い場所に飾るほど星に願いが届くと考えられ、大ぶりな笹を準備し、屋根より高い場所に掲げる習わしがありました。私の掲げるマニフェスト「しき躍進計画35」も、太い芯の大ぶりな笹のような、必ず達成するという強い意志に、短冊のように志木市のさらなる発展を見据えた35の目標を掲げています。もちろん、これを願いでは終わらせず、一つひとつの目標が着実に成就するよう、7月の夜空を眺めながら気持ちを引き締め、市政運営に取り組んでいきます。(※「しき躍進計画35」の進捗状況については、6・7ページに掲載)



今年の夏は盛大に!

志木市の新たなランドマークとして新庁舎といろは親水公園がオープンしてから、7月で1周年を迎えます。この1年間を振り返ると、新庁舎等完成記念イベントを皮切りに、志木市民まつりや志木さくらフェスタなど、さまざまな行事が再開されました。また、学校生活においても、運動会や修学旅行などの行事がコロナ禍で設けていた制限をなくして実施されるなど、徐々に、志木市の賑わいと皆さんの笑顔が戻ってきていることを肌で感じています。

7月には、志木の田子山富士塚の山開きをはじめ、夏を彩るさまざまなイベントが開催されます。志木の夏祭りとして、9日に宿組八坂神社祭礼、15日に下ノ宮八坂神社夏祭り、16日に産財八坂神社夏祭り、22・23日に敷島神社祭典が開催されます。今年の夏祭りでは、宿組八坂神社祭礼に下ノ宮のみこしが参加するなど、志木市の夏をさらに盛り上げる新しい企画も実施されると聞いておりますので、皆さんもぜひ会場に足を運んでいただければと思います。